

認定こども園 Montessori ちゃいるどはうす

令和7年度 保育・教育の自己評価報告書

1. 自己評価の目的

こども園においては、保育・教育過程を踏まえ、それぞれの指導計画や食育計画などに基づいた実践の振り返りを重視しており、保育・教育の内容等の自己評価及び公表を努力義務としています。

本園ではモンテッソーリ教育を基盤とし、子ども一人ひとりの主体的な成長を大切にした保育・教育を実践しています。

自己評価を通して保育・教育の実践を振り返り、園の特性を生かした質の高い保育・教育の向上を図るとともに、職員の資質及び専門性の向上、園としての社会的責任を果たすことを目的としています。

本報告書は、職員による自己評価チェックリストの集計結果をもとに、園としての考察や改善点を整理したものです。

2. 保育教育方針・保育教育目標

本園では、次の子ども像を大切にしています。

- ・ いろいろなことに挑戦できる子
- ・ 自分のことは自分でできる子
- ・ やさしく強い心をもった子

モンテッソーリ教育の理念に基づき、子どもが自ら選び、挑戦し、経験を積み重ねながら成長できる環境を整えています。

3. 自己評価チェックリスト（個人）集計結果

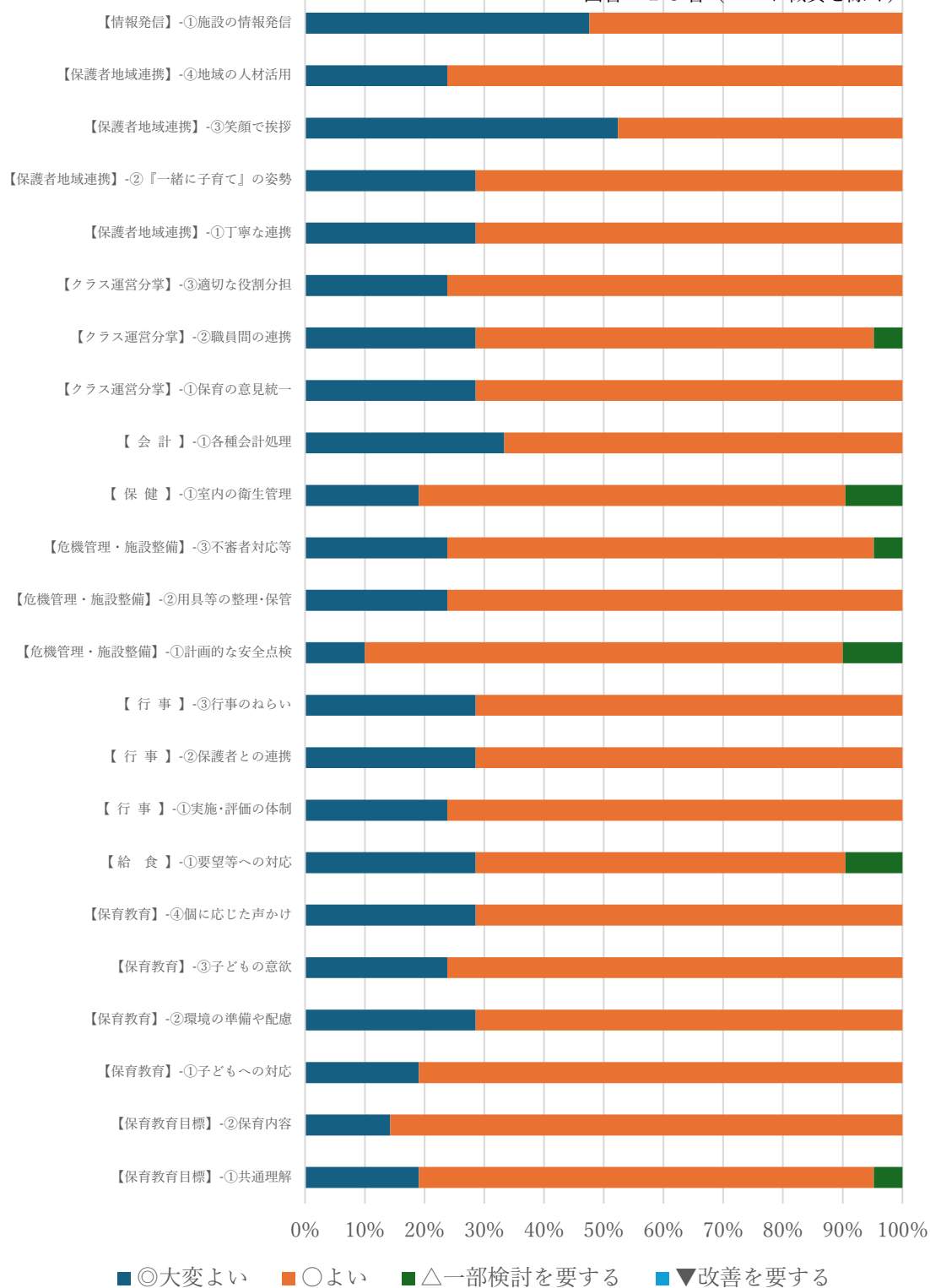
<自己評価チェックリスト（個人）内容>

項目	内容
保育目標	①保育方針、保育目標は全職員で共通理解を図っている。
	②保育方針、保育目標が生かされるような保育内容を考えている。
保育	①子ども一人一人への理解を深め、受容しサインを見逃さず対応している。
	②子どもの意欲を高めるような環境の準備や配慮ができ、見通しを持ちながら、進めている。
	③子どもの発達、興味にあった保育内容で有り、子どもが意欲的に遊んでいる。
	④ 子ども一人一人の育ちの違いを感じ、その子どもにあった声かけを工夫している。
給食	①個人情報適切に取り扱うとともに給食参観を実施し保護者からの要望等に対しその解決を図るよう努めている。
行事	①計画・実施・評価・改善の体制をとっている。
	②保護者の願いや意見を取り入れている。
	③行事の狙いを計画や実施に十分生かしている。
施設整備 危機管理	①施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている。
	②用具等を活動しやすいように、整理・保管している。
	③不審者に対応する周知な配慮を行っている。
保健	①室内の衛生、清掃、整頓を心がけ、気持ちのよい環境を心がけている。
会計 処理	①各種会計を適正かつ適切に処理している。
分掌 クラス運 営	①保育についての話し合いをこまめにし、意見統一ができています。
	②職員間の連携がとれている。
	③それぞれの役割を把握し、適切な動きができています。
保護者 地域連携	①保護者の思いを理解するように努め、丁寧に連携をとっている。
	②子どもの姿を言葉で伝えることを心がけ、よい部分だけでなく気になることも相談し合い『一緒に子育て』を大切にしている。
	③保護者、来客に笑顔で挨拶し、気持ちのよい受け入れをしている。
	④保護者を含む地域の人材を活用している。
情報 発信	①コドモンで子どもたちの様子や施設の情報を発信している。

<自己評価チェックリスト（個別）集計結果>

認定こども園 Montessori ちゃいるどはうす
自己評価チェックリスト集計

回答 23名（パート職員を除く）



※評価項目詳細については上記チェックリスト内容をご参照ください

4 自己評価チェックリスト（個人）集計結果の総括

職員による自己評価チェックリストの集計結果では、全体として「できている」「ほぼできている」と回答した割合が多く、本園の保育・教育実践は概ね良好に行われていることが確認されました。

特に、

- ・子ども一人ひとりの発達や興味に応じた保育
- ・保護者との連携
- ・日常活動や行事を通した子どもの育ちの支援

については多くの職員が肯定的に評価しており、本園の教育理念に基づいた保育が日常的に実践されていることがうかがえます。

一方で、

- ・施設安全管理
- ・環境整備や衛生管理
- ・職員間の情報共有や連携

については、今後さらに充実させていく必要があることも確認されました。

これらの結果を踏まえ、今後も園全体で振り返りを行いながら保育・教育の質向上に努めていきます。

5. 考察及び課題・改善点

【保育教育目標】

保育教育目標の実現に向け、各クラスが子どもの姿を丁寧に観察しながら保育教育を実践しました。

職員数が多い中で全体での話し合いの時間の確保には難しさもありますが、クラス内での話し合いや日々の保育の中で、子どもが「自分でできるようになるためにはどのような環境や援助が必要か」を考えながら保育を行っています。

また、行事や日常活動の中にも保育目標が自然に組み込まれており、子どもたちが主体的に挑戦する機会を大切にしたい保育が実践されています。

【保育教育】

子ども一人ひとりの興味や発達、意欲を尊重しながら保育を進めることを意識し、職員同士で情報共有及び共通理解を図っています。

子どもが十分に活動できるよう時間や環境に配慮し、その時々の子どもの姿を見ながら柔軟に活動計画を立てています。

また、モンテッソーリ教育に基づいた教具や環境整備が進められ、子どもたちが主体的に活動を選び、生き生きと取り組む姿が見られました。

【給食】

給食については、保護者から寄せられる意見や要望を職員間で共有しながら、より良い給食提供や情報発信の在り方について検討を行いました。

今後も子どもたちが安心して楽しく食事ができる環境づくりを大切にしながら、食育活動を充実させていきます。

【行事】

四季の自然や日本文化を大切にした行事を通して、子どもたちが豊かな感性や社会性を育む体験を提供しました。

行事後には職員同士で振り返りを行い、保護者からの意見も参考にしながら次年度の改善につなげています。

【施設整備・危機管理】

施設や設備については、日常的に職員が気付いた点を共有しながら安全管理に努めています。

特に園庭や屋外環境については定期点検の必要性について職員間で意識が高まりました。

避難訓練や安全確認についても様々な状況を想定しながら実施し、安全意識の向上に努めています。

【保健】

日常の保育の中で子どもたちの健康と安全を第一に考えながら、衛生管理にも取り組んでいます。

限られた時間の中ではありますが、清潔な環境づくりを心掛けています。

【会計】

会計処理については、期限を守り適切に処理を行い、複数人で確認する体制を維持しています。

【クラス経営・役割分担】

クラス運営については話し合いの時間を設けながら役割や動きについて確認し、共通理解を図っています。

今後は情報共有の方法をさらに工夫し、職員間の連携をより円滑にしていくことが課題です。

【保護者連携・地域連携】

保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、保護者の思いや意見を丁寧に聞き取る関わりを心掛けています。

また、実習生の受け入れや地域との交流を通して地域に開かれた園づくりにも取り組んでいます。

【情報発信】

園外活動や行事、日々の子どもたちの様子について ICT を活用しながら保護者へ情報発信を行っています。

5. 本園の教育の特色

本園ではモンテッソーリ教育を基盤とし、日本の四季や文化、自然との関わりを大切にした教育を行っています。

教育は次の7つの柱によって構成されています。

- ① モンテッソーリ教育環境
- ② 言語教育（日本語・英語）
- ③ 日本文化・四季教育
- ④ 食育・自然体験
- ⑤ 社会性・思いやり（Grace & Courtesy）
- ⑥ 芸術・身体・創造活動（音楽・美術・プログラミング・スイミング・クッキング）
- ⑦ 保護者連携・地域連携

これらの活動は日常生活の中に自然に組み込まれ、子どもたちの主体的な成長を支える教育環境となっています。

6. 次年度に向けた重点課題

自己評価結果を踏まえ、次年度は次の点に重点的に取り組みます。

- ① 保育・教育内容のさらなる充実
- ② 職員間の連携と情報共有の充実
- ③ 安全管理・環境整備の充実

7. 園長総括

本園ではモンテッソーリ教育の理念を基盤とし、子ども一人ひとりの主体性を尊重した保育・教育を実践しています。

今回の自己評価では、職員が日々の保育を振り返りながら保育の質の向上に取り組んでいることが確認できました。

一方で、職員間の情報共有や施設安全管理など、さらに充実させていくべき課題も見えてきました。

今後も自己評価を通して保育・教育の質向上に努め、子どもたちが安心して主体的に成長できる環境づくりを進めてまいります。

認定こども園 Montessori ちゃいるどはうす

園長 乾 泰代

令和8年3月